

2 - 4) 作付体系事例

(1)作付体系の現状

- ・ 秋まき小麦や大豆の転作面積が増加しており、それらの連作ほ場が増加するなど、特定の作物に偏った作付け体系が多く認められる。
- ・ 過作条件下で、秋まき小麦では立枯病や眼紋病、豆類ではダイズシストセンチュウや小豆落葉病等、土壌病害虫の被害が増加する傾向にあり、作付体系の改善が必要である。

秋まき小麦や大豆の連作事例

秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 大豆 → 大豆 → 大豆

秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦

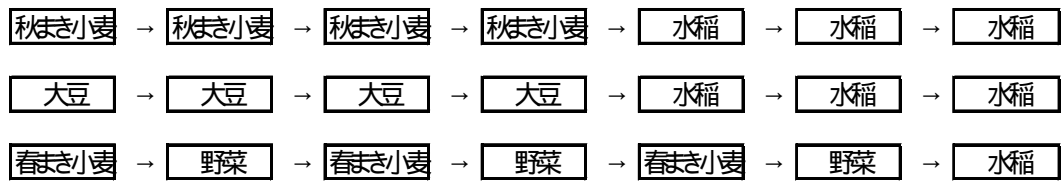
作付が豆類に偏っている事例

小豆 → 小豆 → 大豆 → 大豆 → 小豆 → 大豆 → 大豆

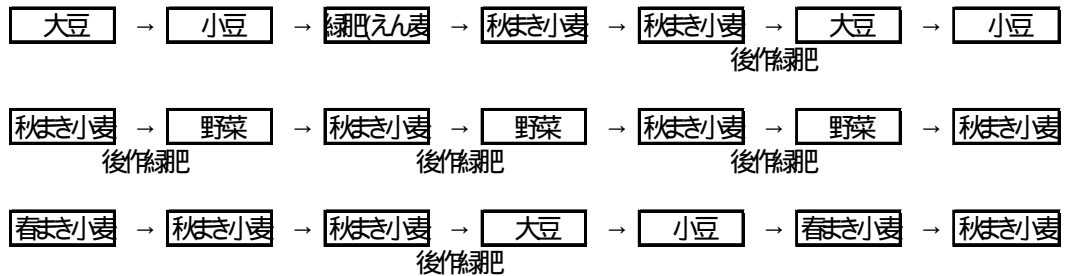
(2)連作障害軽減のための当面の作付体系改善事例

- ・ 連作障害を軽減するため、他の畑作物へ変更したり、水稻へ復元する等の対応が行われている。
- ・ 大豆栽培ほ場への秋まき小麦の間作栽培や春まき小麦の初冬播き栽培、小麦収穫跡地への緑肥作物栽培等、連作障害を軽減するための作付体系改善対策が徐々に浸透してきている。

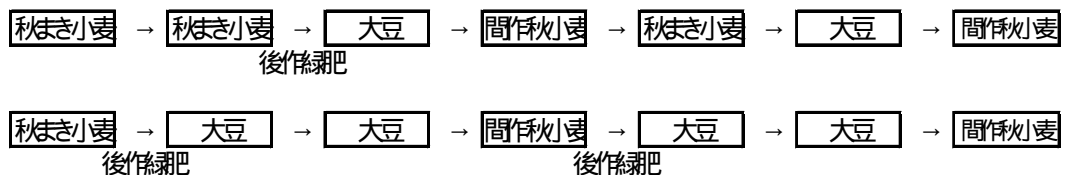
小麦等の連作障害(病害、雑草等)を解消するため水稻へ転換し、別の作物を新たに転作する作付事例



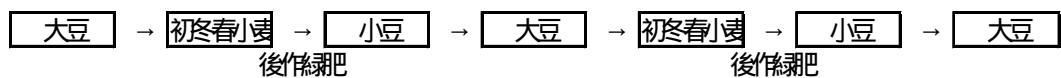
秋まき小麦の前作物に、緑肥作物、野菜、春まき小麦などを取り入れ連作を解消している作付事例



間作栽培技術の導入で大豆を秋まき小麦の前作として連作を解消している作付事例



春まき小麦を初冬播き栽培して、収量・品質を向上させ春まき小麦を転作物として定着させている作付事例



(3) 転作物を安定的に生産するための作付体系改善事例

- ・ 主要病害虫が共通しない作物を組み合わせるなど、連作を最小限にして連作障害の発生を防止する。
- ・ ネグサレセンチュウ対策としてえん麦野生種、ダイズシストセンチュウ対策としてアカクローバ等、緑肥作物を積極的に導入し、各作物の収量・品質の向上を図る。
- ・ 大豆栽培ほ場への秋まき小麦の間作栽培や春まき小麦の初冬播き栽培など作付改善に効果的な技術を積極的に取り入れる。
- ・ この作付体系を定着させるためには、土地の効率的な利用を可能にする基盤整備や機械・施設整備、流通・販売体制等の整備が必要である。

大豆間作秋まき小麦栽培 春まき小麦の初冬播き栽培 後作緑肥等を取り入れ輪作の安定を図る作付事例

大豆 → 間作秋小麦 → 秋まき小麦 → 大豆 → 野菜 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦
後作緑肥 後作緑肥

大豆 → 間作秋小麦 → 秋まき小麦 → 小豆 → 初冬春小麦 → 大豆 → 間作秋小麦
後作緑肥 後作緑肥

主要畑作物をバランス良く作付する事例

ばれいしょ → 秋まき小麦 → てんさい → 豆類 → ばれいしょ → 秋まき小麦 → てんさい
後作緑肥 後作緑肥

豆類 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → てんさい → 豆類 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦
後作緑肥

休耕緑肥等を取り入れて輪作改善や地力維持を図る作付事例

緑肥 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → ばれいしょ → てんさい → 緑肥 → 秋まき小麦
後作緑肥

豆類 → てんさい → コン類 → 豆類 → てんさい → コン類 → 豆類
後作緑肥

有畜化及び畜産農家との連携による作付事例

有畜化
牧草 → 牧草 → 牧草 → 牧草 → 牧草 → 牧草 → 牧草
交換耕作等
飼料作物 → 飼料作物 → 飼料作物 → 秋まき小麦 → 秋まき小麦 → てんさい → 豆類
後作緑肥



大豆栽培ほ場への秋まき小麦の間作栽培(北村)



春まき小麦の初冬播き栽培(江別市)

引用文献

- 1) 中央農試・上川農試 (1996). 春播小麦の初冬播栽培 - は種期、播種量と施肥法について - . 平成 8 年普及奨励ならびに指導参考事項 . 北海道農政部 .
- 2) 中央農試 (1986). 大・小豆畑へのばらまき栽培による秋まき小麦の導入 . 昭和 6 1 年普及奨励ならびに指導参考事項 . 北海道農政部 .
- 3) 中央農試・上川農試・農業改良課 (1986). 大・小豆畑へのばらまき栽培による秋まき小麦の導入に関する調査研究 . 昭和 6 1 年普及奨励ならびに指導参考事項 . 北海道農政部 .
- 4) 網走支庁改良普及員地域課題解決チーム、北見農試、網走支庁 (2002). 網走支庁管内における畑作輪作の将来方向に関する検討 .
- 5) 北海道農政部 (1994). 北海道緑肥作物等栽培利用指針 .